

四国のSL「静態保存活動調査」について

四国鉄道は昭和 45 年 3 月 31 日、徳島駅を発車した SL「78647号」の運転を最後に、全国に先駆けて完全無煙化を達成しました。

四国地方の経済成長の原動力となり文化交流・地域の足として絶えず活気に満ちて力強く走り続けた蒸気機関車（SL=Steam Locomotive）も時代の移ろいとともに次第に姿を消していきました。

出発は超スローモーションでゆっくりと、そして力強く動輪が動き始め、徐々に加速して、やがて目的地に向かってひた走るスピード感溢れる SL列車の魅力は、誰もが懐かしい思い出として持ち続けていると思います。

四国の鉄道から SLが姿を消して丸 43 年が経ちました。SLに親しみ SLから与えられた恩恵を末永く残そうとの思いから各地で静態保存されている SLたちがいます。

一方で今年は JR瀬戸大橋線が開業 25 周年の節目にあたり、「瀬戸内国際芸術祭 2013」とも相まって脚光を浴びています。そんな中で、四国鉄道OB会では昭和 30 年代の日本の高度成長時代を支えた SLたちが今、静かに保存されている現状を再確認するとともに、これからも末永く地域の中で保存されていくことを願って、現地調査を実施し本編調査表を作成しました。保存については、OB会活動の中で SL保存に取り組んでいる各分会があります。市民ボランティアが活動している SLもあります。随時、保存団体となっている公共自治体が清掃等を行っている SLもあります。どうやって保存に取り組んでいけばよいのか悩んでいる展示場もあります。

今一度、OB会員一人ひとりが地域で静かに余生を過ごしている栄光の SLたちに目をかけてやってください。そして末永く保存していくための知恵や工夫等のアドバイスをいただければと願っています。

今回の調査にご協力いただきました JR四国、OB会各支部、各分会の皆様方、誠にありがとうございました。

2013 年（平成 25 年）4 月

四国鉄道OB会本部事務局

参考図書

保存展示蒸気機関車

昭和 57 年 2 月 四国総局車両管理室